

山梨県富士吉田市 景観デザインガイド

2023.09.25

富士吉田市まちづくり公社

目次

1 はじめに	p.03
富士山の玄関口として	
2 対象区域	p.04
3 山梨県富士吉田市 御師の街並み景観デザインガイド	
3-1 御師について	p.06
3-2 御師の街並みの特徴	p.07-08
3-3 デザインガイド	
ガイドの使い方	p.09
建物の改修サンプル	p.10
屋根のルール	p.11-16
壁のルール	p.17-23
建具のルール	p.24-31
外構のルール	p.32-36
屋外広告物のルール	p.37-40
4 山梨県富士吉田市 下吉田地区景観デザインガイド	
4-1 下吉田地区について	p.42-44
4-2 基本方針	p.45
4-3 各地区共通の基準	p.46
4-4 部位別デザインガイド	
デザイン基準の使い方	p.47
屋根のルール	p.48-50
壁面のルール	p.51-52
開口部のルール	p.53-54
照明のルール	p.55-56
装飾保全のルール	p.57-58
建築設備のルール	p.59
屋外広告物のルール	p.60-62
外構のルール	p.63-64
4-5 景観形成建築事例	p.65-67
4-6 リノベーション建築事例	p.68-73
4-7 下吉田地区事例地図	p.74
5 さいごに	p.75
別冊 住民ヒアリング集	

富士山の玄関口として

富士山信仰や繊維産業の歴史をもつ富士吉田市のレトロな景観と富士山が国内外から注目され、中心市街地には多くの人々が訪れるようになっていきます。

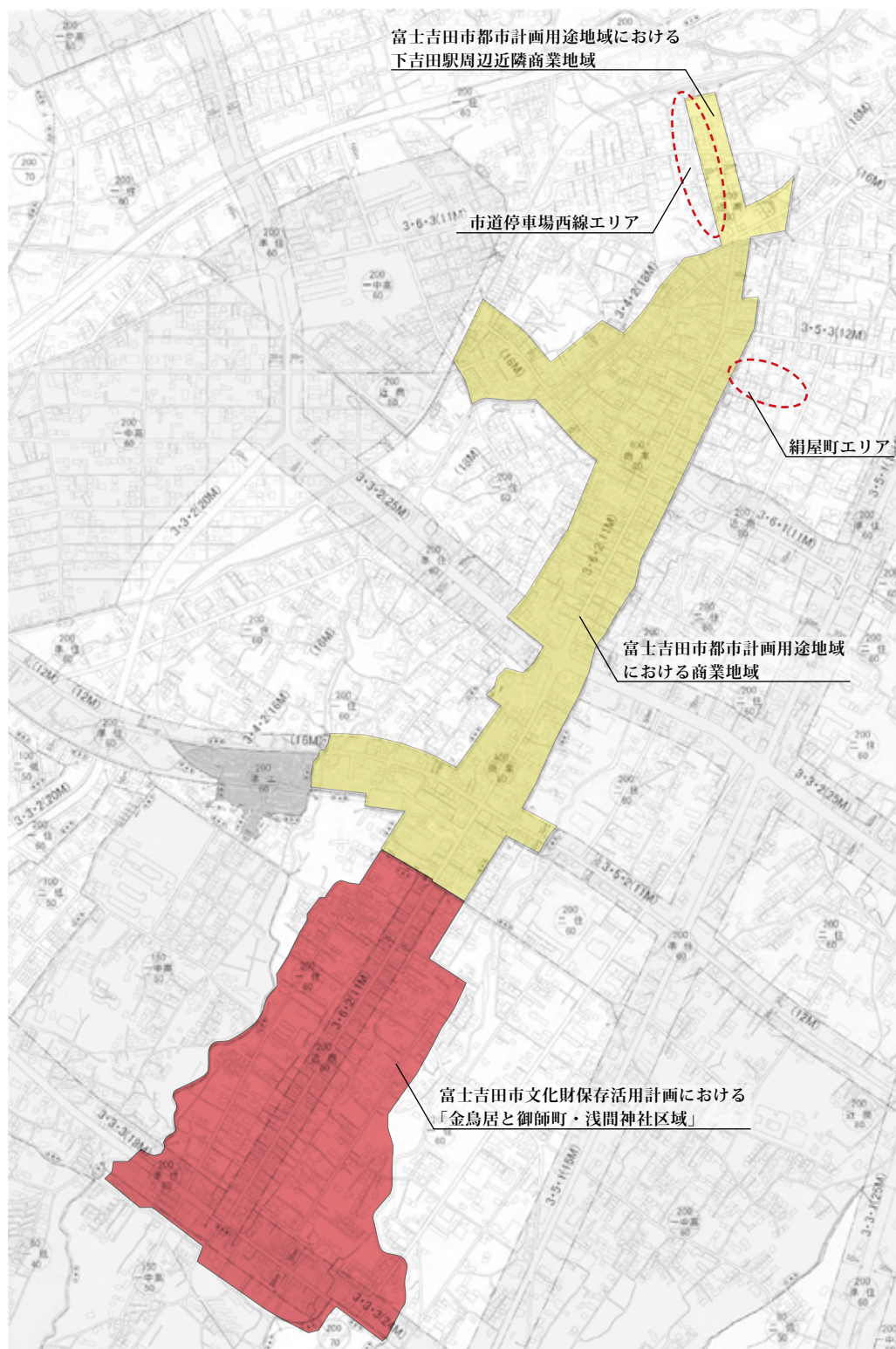
まちの歴史を伝える大切な財産であるこれらの景観は、一朝一夕に成し得られたものではありません。

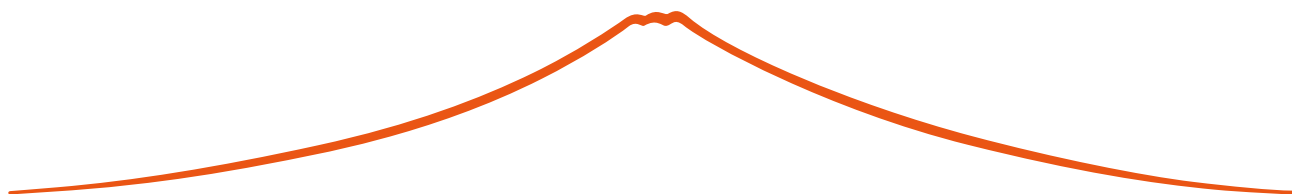
景観形成は市民の自主性による部分が多く、市民一人ひとりが主役となって取り組んで行くことが重要になります。

本ガイドラインはそのような富士吉田市ならではの魅力的な景観を維持しつつ、新たな賑わいを創出するために地区の特性や課題を整理し、景観づくりの基本方針や基準を示すものです。

本ガイドラインの基準に沿って、建築物等の修理・修景を行っていただくことで、富士吉田市らしい景観が磨かれていくこととなりますので、是非、多くの方々にご活用いただければとおもいます。

対象区域





山梨県富士吉田市 御師の街並み 景観デザインガイド

御師について



「上吉田金鳥居からの富士」絵葉書
大正～昭和初期（ふじさんミュージアム蔵）

富士山信仰を支えた御師の家。平安時代以前は、富士山は登らず裾野から遥拝していましたが、仏教の影響によって、登拝するという祈りのかたちに変わりました。富士山の裾野にある御師の家を宿坊とし、富士吉田の街は富士道者によって賑わいました。

御師の家は、一時は80軒以上あったといえます。

御師は、夏季に富士講信者が登拝を行うのにあたり、宿泊・食事の準備をはじめ一切の世話をを行うとともに、日常は富士山信仰の布教活動及び祈禱を行うことを生業としていました。

下宿（富士みちの交差点）の入口には、金鳥居とよばれる鳥居があります。富士信仰においては、その鳥居から南側を神聖なものとして考え、御師の家に関わる人達が住みました。そのため、富士吉田における一般の人々の生活は、金鳥居より北側を中心に発展していきました。また、神聖な世界に不浄のものが入ることがないように、金鳥居の北側には閻魔堂が設置され、金鳥居からの境界線を見張っていたそうです。

金鳥居は、もともと「唐銅鳥居」と呼ばれていました。唐銅とは、青銅のことを表しているので、昔は単純に「青銅の鳥居」という意味で呼ばれていたようです。しかし、その呼び方がなまり現在の呼び方になったと言われています。

御師の街並みの特徴

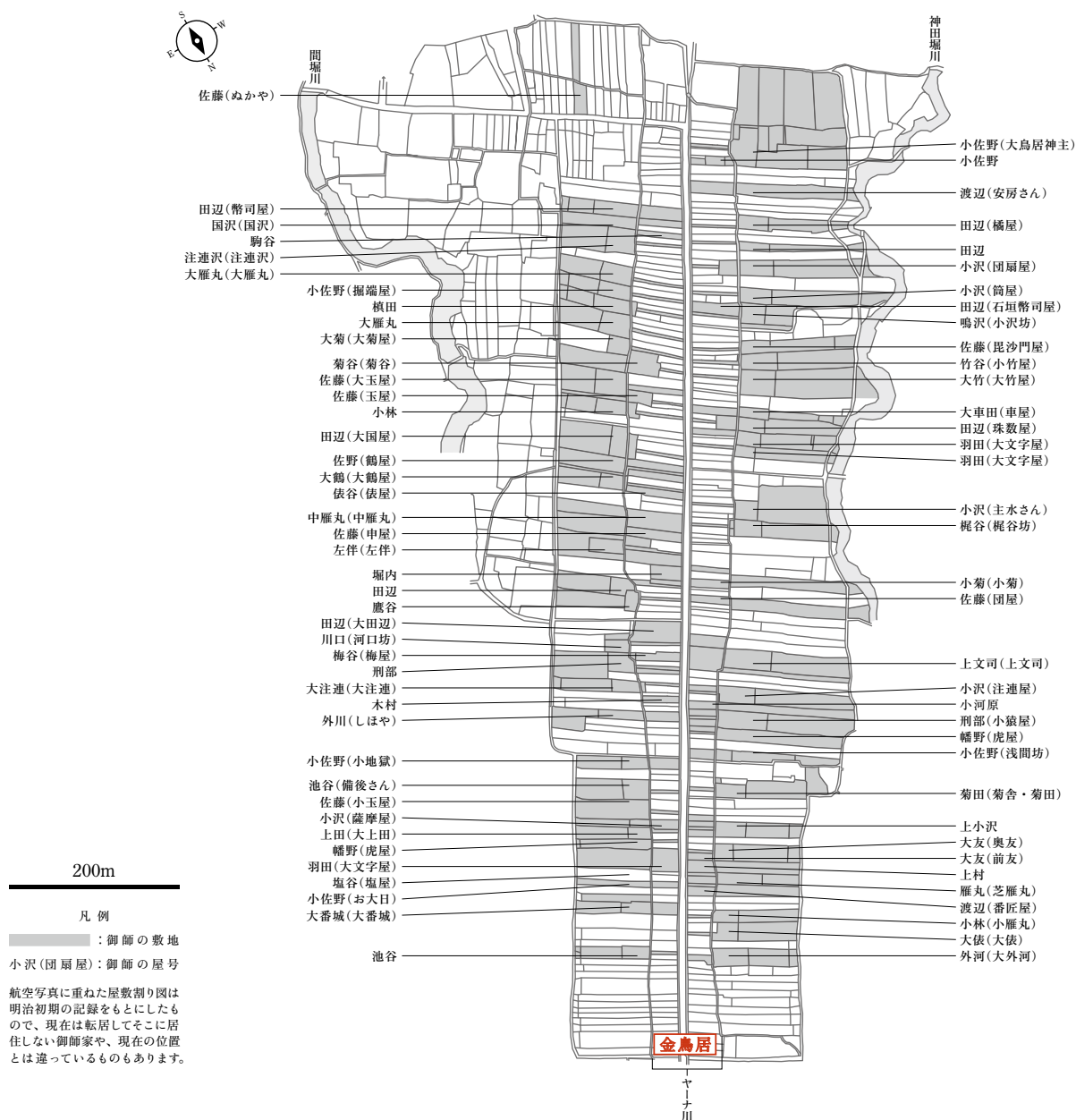


旧外川家住宅の中門と主屋（2016年現在）

富士山信仰の拠点となった上吉田では、参詣登山者の案内や宿泊を業とする御師達が集住し、中世末から近世にかけて町場として大きな発展がみられました。元亀3年(1572)には集落移転が行われ、付け替えられた鎌倉往還は、富士山麓の等高線に直交する形で一直線に富士山(小御岳)に向かって延び、南端で北口本宮富士浅間神社へとL字に折れ曲がります。東南角には戦国期より参詣道者の信仰を集めた時宗道場・西念寺が立地しており、東・西を間堀川・神田堀川に挟まれた防御性にすぐれた中世的な「^{かまき}構」をもつ集落が形成されました。

町割では、往還の両側、上宿・中宿に相当する部分に斜面地を雛壇状に造成しながら、間口10数間、奥行80間を超える御師屋敷の長大な短冊形地割が割り付けられ、さらに慶長11年(1606)には北に連続して奥行を60間に揃えられた規則的な短冊形地割をもつ下宿が建設されます。現在も、かつての御師屋敷の敷地境界を示す長大な短冊形地割が良好に継承されており、御師の街並みを特徴づける地割形態を保存することがまず重要となります。

また、御師屋敷の長大な短冊形地割では、中ほどを貫通する「ヤーナ川」と呼ばれる水路の表側が、新興の町御師や商職人・百姓など一般住民が居住する「前屋敷」へと変化し、一方「タツミチ」と呼ばれる往還からの引き込み路を設けた敷地の奥に有力な御師家の住宅が配置されることで、表と奥の二段構成をもつ特徴的な街並み景観が成立しました。それは、街道沿いに商家や旅籠の町家がならぶ宿場町のような単純な町並とは大きく異なっており、全国的にみても極めて貴重な歴史的景観として位置づけられます。



さらに建築形式をみると、前屋敷では、平入・妻入形式の町家が混在し、間口の狭い通り土間1列型町家が早い段階で成立していることから、江戸とも密接な繋がりをもった上吉田の都市的發展が窺われます。近代以降には、明治25年(1892)「富士山北口本宮富士浅間神社境内全図」にみられるように、往還に面して前庭を設け、2階に御神前、客間を配した旅館型の御師住宅も多く建てられ、富士登山の近代化、観光登山の普及にあわせて前屋敷の建物形式も多様化しています。このような近代的景観の価値にも注目する必要があります。

一方、伝統的な御師住宅にも平入・妻入形式が早くから混在しましたが、特徴的なのは妻入形式の御師住宅とその屋敷構です。往還に面して門柱を立てたタツミチの正面に中門を設け、襖ぎ場となるヤーナ川を介して、主屋の式台玄関から書院座敷を経て御神前へ至る奥への軸線もち、さらに大勢の登山者が宿泊できる離れ座敷や屋敷墓を裏地に設ける御師屋敷も残されています。こうした屋敷構の全体が、御師家の格式を象徴する上で重要な建築形式となったと考えられます。

上吉田では、表側のファサード修景だけでなく、御師の街並みに現存する様々な歴史資源を活かした、奥行のある街並み景観の保全が求められることとなります。

執筆：東京理科大学工学部建築学科 伊藤裕久教授

1

ガイドの使い方

建物デザインールの構成

「建物デザインール」の構成としては、建物全体にかかる基本方針として本ページ記載の「基本ルール」と「改修サンプル」、「詳細ルール」で構成されています。改修サンプルはルール適用のお手本として紹介しています。建物の外観を構成する主要要素である「屋根」「壁」「建具」「外構」の4つに分けて、それぞれの構成要素を「素材」「色味」「質感」「形状」の4つの指標で定義しています。それぞれの指標を定義するにあたって、改修検討時にルールとして利用しやすいよう、見本帳という形で表現しています。

基本ルール

- 一．自然素材を用い、^(※1)新建材は使用しない。
- 二．周囲の街並みとの調和を考慮する。
- 三．明度、彩度の低い落ち着いた色味を使う。
- 四．^(※2)設備機器は建物側面や裏側に隠す。

(※1) 新建材…新しい材料や製法によって作られた建築材料。ここでは主に、プラスチックやアルミ、合成樹脂系の材などを指す。

(※2) 設備機器…ここでは主に、エアコンの室外機や電気メーター、ガスメーターなどを指す。

2

建物の改修サンプル



改修物件の概要

所在地：山梨県富士吉田市上吉田4丁目

現況：空家（旧・刑部ふとん店）

この建物は、御師まちエリアの修景モデルとするため、今回先行的に修景整備を実施した。

改修前



3

屋根のルール



基本的な考え方

落ち着いた和の雰囲気を感じる街並みにするために、焦げ茶色（黒色系）を基本とする。ただし、「この地域で昔から使われている赤色」は可とする。赤色を使用する場合は、明度・彩度の低い落ち着いた色味のものとする。基本的に、明度が低くツヤのない塗装が望ましい。

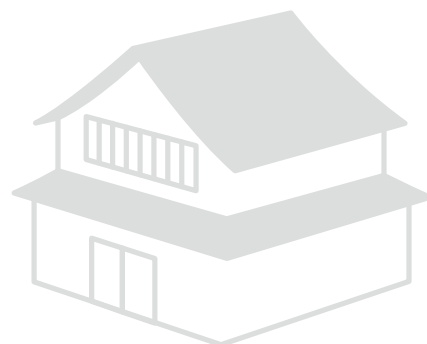
改修のポイント

素材 | すべての素材を使用可。▶ [P.10](#)

色味 | 「焦げ茶色（黒色系）」から「この地域で昔から使われている赤色」の間。▶ [P.11](#)

質感 | ツヤのない素材または塗装が望ましい。▶ [P.13](#)

形状 | シンプルな勾配屋根を基本とする。（陸屋根は極力避ける）▶ [P.14](#)



3

屋根の素材見本

塗装色あるいは素材の色を、色見本の基準に合わせれば、基本的にすべての屋根材を使用可。

※ただし、奇抜な形状の材は不可とする。



【金属系】
トタン

屋根の素材見本



【金属系】
ガルバリウム鋼板

屋根の素材見本



【金属系】
銅板

屋根の素材見本



【スレート系】
化粧スレート

屋根の素材見本



【スレート系】
天然スレート

屋根の素材見本



【セメント系】
セメント瓦

屋根の素材見本



【粘土系】
粘土瓦

屋根の素材見本

3

屋根の色見本

- ・黒色～濃灰色（無彩色／明度2以下）
- ・くすんだ赤色系（色相5R～10R／明度3以下／彩度10以下）
- ・濃い焦げ茶色系（色相5YR～7.5YR／明度3以下／彩度3以下）

※ 本マニュアルの色見本は近似色であり、出力環境によって色味が変わりますので、正確には（社）日本塗装工業会の色見本をご使用ください。



DN-10（日塗工色番号）
N1（マンセル値）

屋根の色見本



DN-15（日塗工色番号）
N1.5（マンセル値）

屋根の色見本



DN-20（日塗工色番号）
N2（マンセル値）

屋根の色見本



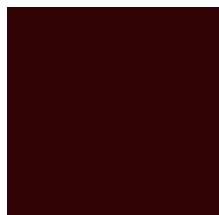
DN-30（日塗工色番号）
N3（マンセル値）

屋根の色見本



DN-40（日塗工色番号）
N4（マンセル値）

明度の高い色のため ②



D07-20H（日塗工色番号）
7.5R2 4（マンセル値）

屋根の色見本



D07-30L（日塗工色番号）
7.5R3 6（マンセル値）

屋根の色見本 ③



D05-30T（日塗工色番号）
5R3 10（マンセル値）

屋根の色見本



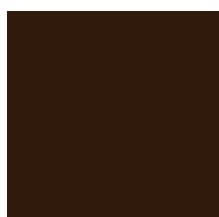
D05-40V（日塗工色番号）
5R4 12（マンセル値）

明度の高い色のため



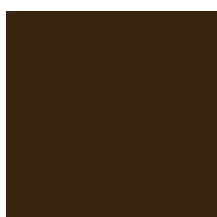
D05-50V（日塗工色番号）
5R5 12（マンセル値）

明度の高い色のため ④



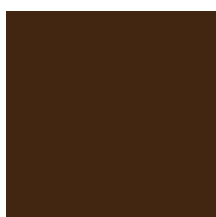
D15-20B（日塗工色番号）
5YR2 1（マンセル値）

屋根の色見本



D15-15B（日塗工色番号）
5YR3 1（マンセル値）

屋根の色見本 ⑤



D17-30F（日塗工色番号）
7.5YR3 3（マンセル値）

屋根の色見本



D15-30F（日塗工色番号）
5YR3 3（マンセル値）

屋根の色見本



D09-30F（日塗工色番号）
10YR3 3（マンセル値）

明度の高い色のため ⑥

3

屋根色のシミュレーション

- ・黒色系の場合、②のような明度が高い灰色に寄らないように注意する。
- ・赤色系や茶色系の場合、④や⑥のような彩度や明度の高い色味に寄らないように注意する。

① 黒色（推奨色）

濃い黒色が目指すべき街並みに最も適合するため、推奨色とする。



② 灰色

濃灰色も可であるが、このぐらい薄い灰色は不可とする。



③ くすんだ赤色

この地域で伝統的に使われている赤み方向の色も、くすんだ色味であれば可とする。



④ 明るい赤色

明度、彩度の高すぎる赤色は不可とする。



⑤ 濃い焦げ茶色

茶色系も、濃い焦げ茶色方向の色味であれば可とする。



⑥ 明るい茶色

明度、彩度の高い茶色は不可とする。



3

屋根の質感見本

- ・塗装の場合、ツヤ消し塗装が望ましい。
- ・無塗装で使う素材の場合は、素材の質感がマットなものが望ましい。



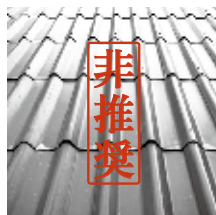
【塗装】
ツヤ消し塗装

屋根の質感見本



【塗装】
弱めのツヤ塗装

和の雰囲気には合わないため



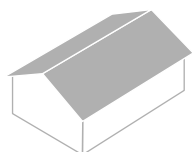
【塗装】
ツヤ塗装

和の雰囲気には合わないため

3

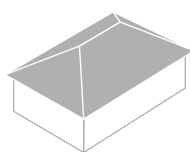
屋根の形状見本

- ・基本的に勾配屋根とし、奇抜な形状は禁止とする。
- ・屋根を葺く素材の形についても、奇抜な形状を禁止する。



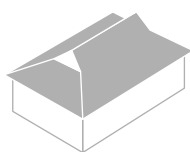
【屋根形状】
切妻屋根

屋根の形状見本



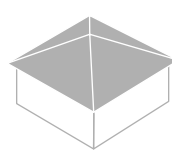
【屋根形状】
寄棟屋根

屋根の形状見本



【屋根形状】
入母屋屋根

屋根の形状見本



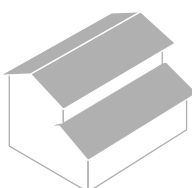
【屋根形状】
方形屋根

屋根の形状見本



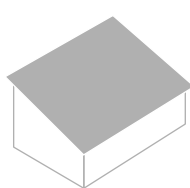
【屋根形状】
越屋根

屋根の形状見本



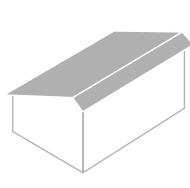
【屋根形状】
差掛け屋根

屋根の形状見本



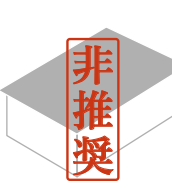
【屋根形状】
片流れ屋根

屋根の形状見本



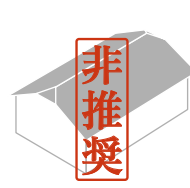
【屋根形状】
招き屋根

屋根の形状見本



【屋根形状】
陸屋根

和の雰囲気合わないため



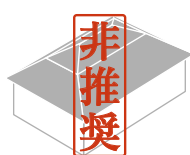
【屋根形状】
はかま腰屋根

和の雰囲気合わないため



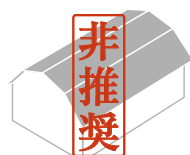
【屋根形状】
かまぼこ屋根

和の雰囲気合わないため



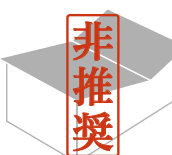
【屋根形状】
マンサード屋根

和の雰囲気合わないため



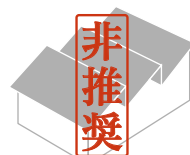
【屋根形状】
ギャンブルル屋根

和の雰囲気合わないため



【屋根形状】
バタフライ屋根

奇抜な形状のため



【屋根形状】
鋸屋根

奇抜な形状のため



【素材形状】
瓦

奇抜な形状のため



【素材形状】
天然スレート

奇抜な形状のため

4

壁のルール



基本的な考え方

重厚感を感じる和の雰囲気にするため、焦げ茶色系から茶色系で彩度、明度の低い色の木材板張り仕上げを基本とする。材種は「焼杉板」を推奨としているが、色味などを合わせれば、その他の樹種も可とする。塗装の場合に関しては、木材の質感を活かした塗装とし、ツヤ消し仕上げとする。

改修のポイント

素材 | 木材板張り仕上げを基本とする。（「焼杉板」推奨） ▶ P.16

色味 | 「焦げ茶色（黒色系）」から「茶色」の彩度、明度の低い色。 ▶ P.17

質感 | ツヤのない素材または塗装仕上げを基本とする。 ▶ P.20

形状 | 開口部以外の外から見える壁は基本的に木材仕上げ。 ▶ P.21



4

壁の素材見本

塗装色を色見本の基準に合わせれば、基本的にすべての木材を使用可とする。

土壁や漆喰など、自然素材の塗り壁系は使用可であるが、木壁の街並みを目指すために非推奨とする。



【板張り】
杉（焼杉）

壁の素材見本



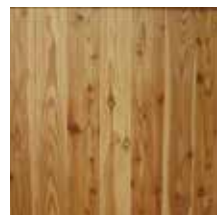
【板張り】
杉（赤身）

壁の素材見本



【板張り】
ウエスタンレッドシダー

壁の素材見本



【板張り】
カラマツ

壁の素材見本



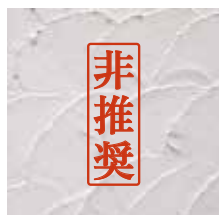
【板張り】
サーモウッド

壁の素材見本



【左官】
土壁

木壁の街並に統一するため



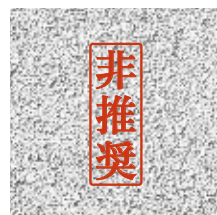
【左官】
漆喰

木壁の街並に統一するため



【左官】
セメントモルタル

木壁の街並に統一するため



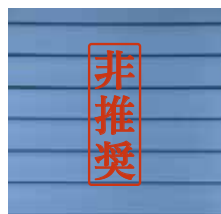
【セメント】
モルタル吹き付け

和の雰囲気には合わないため



【セメント】
コンクリート打ちっ放し

和の雰囲気には合わないため



【サイディング】
金属系

和の雰囲気に合わないため



【サイディング】
セラミック系

和の雰囲気に合わないため



【サイディング】
樹脂系

和の雰囲気に合わないため



【サイディング】
ALC

和の雰囲気に合わないため



【サイディング】
窯業系

和の雰囲気に合わないため



【サイディング】
タイル

和の雰囲気に合わないため



【石材】
石

和の雰囲気に合わないため



【石材】
レンガ

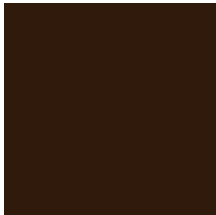
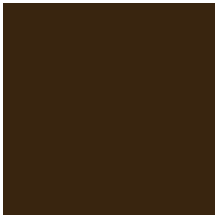
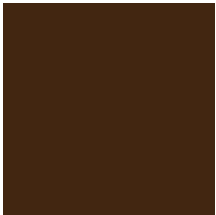
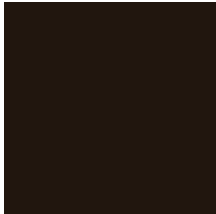
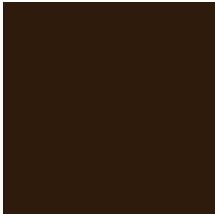
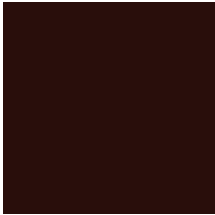
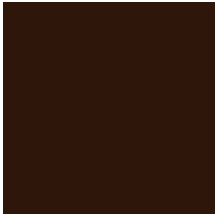
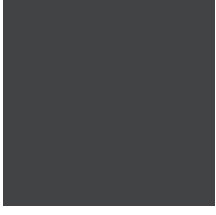
和の雰囲気に合わないため

4

壁の色見本

- ・濃い茶色系（色相5～10YR、10R／明度3以下／彩度3以下）
- ・黒色～濃灰色（無彩色／明度3以下）

※ 本マニュアルの色見本は近似色であり、出力環境によって色味が変わりますので、正確には（社）日本塗装工業会の色見本をご使用ください。

 D15-20B（日塗工色番号） 5YR2 1（マンセル値） 壁の色見本	 D15-15B（日塗工色番号） 5YR3 1（マンセル値） 壁の色見本	 D17-30F（日塗工色番号） 7.5YR3 3（マンセル値） 壁の色見本	 D15-30F（日塗工色番号） 5YR3 3（マンセル値） 壁の色見本	 非推奨 D09-30F（日塗工色番号） 10YR3 3（マンセル値） 明度の高い色のため ②
 D19-20B（日塗工色番号） 10YR2 1（マンセル値） 壁の色見本	 D19-30B（日塗工色番号） 10YR3 1（マンセル値） 壁の色見本 ③	 D19-30D（日塗工色番号） 10YR3 2（マンセル値） 壁の色見本	 D15-40D（日塗工色番号） 5YR4 2（マンセル値） 壁の色見本	 非推奨 D17-40H（日塗工色番号） 7.5YR4 4（マンセル値） 明度の高い色のため ④
 D09-20B（日塗工色番号） 10R2 1（マンセル値） 壁の色見本	 D09-20D（日塗工色番号） 10R2 2（マンセル値） 壁の色見本 ⑤	 D09-30F（日塗工色番号） 10R3 3（マンセル値） 壁の色見本	 非推奨 D07-20H（日塗工色番号） 7.5R2 4（マンセル値） 明度の高い色のため	 非推奨 D07-30L（日塗工色番号） 7.5R3 6（マンセル値） 明度の高い色のため ⑥
 DN-10（日塗工色番号） N1（マンセル値） 壁の色見本 ⑦	 DN-20（日塗工色番号） N2（マンセル値） 壁の色見本	 DN-30（日塗工色番号） N3（マンセル値） 壁の色見本	 非推奨 DN-40（日塗工色番号） N4（マンセル値） 明度の高い色のため	 非推奨 DN-50（日塗工色番号） N5（マンセル値） 明度の高い色のため ⑧

4

壁色のシミュレーション

- ・茶色の場合、②のような彩度や明度が高い明るすぎる色味に寄らないようにする。
- ・黄色系の茶色の場合、④のような彩度や明度が高い明るすぎる色味に寄らないようにする。
- ・赤色系の茶色の場合、⑥のような彩度や明度が高い明るすぎる色味に寄らないようにする。

① 濃い茶色（推奨色）

濃い茶色系の彩度が低めのものは推奨色とする。



② 明るい茶色

茶色でも、彩度や明度の高い明るすぎる色味は非推奨とする。



③ 濃い黄色系の茶色

黄色寄りの茶色でも、彩度や明度の低めのものは可とする。



④ 明るい黄色系の茶色

黄色寄りの茶色の、彩度や明度の高い明るすぎる色味は非推奨とする。



⑤ 濃い赤色系の茶色

赤色寄りの茶色でも、彩度や明度の低めのものは可とする。



⑥ 明るい赤色系の茶色

赤色寄りの茶色の、彩度や明度の高い明るすぎる色味は禁止とする。



4

壁色のシミュレーション

- ・無彩色の場合、⑧のような彩度や明度が高い明るすぎる色味に寄らないようにする。

⑦ 黒色（推奨色）

黒色系の彩度が低い（濃い）ものは推奨色とする。



⑧ 灰色

濃灰色も可であるが、このぐらい薄い灰色は不可とする。



4

壁の質感見本

木材を塗装する場合は、基本的に木目を活かしたツヤ消しの仕上げを推奨とする。
焼杉の場合、素焼き又はブラシ仕上げのどちらでも可とする。



【塗装】
ツヤ消し塗装

壁の質感見本



【塗装】
ツヤ塗装

和の雰囲気には合わないため



【焼杉】
素焼き

壁の質感見本



【焼杉】
ブラシ仕上げ

壁の質感見本

4

壁の形状見本

木材の縦張り、あるいは押縁下見板張りが推奨であるが、横張りも可とする。

※ただし、奇抜な形状の材や張り方は不可とする。



【縦張り】
100～200mm 幅

壁の形状見本



【押縁下見板張り】
100～200mm 幅

壁の形状見本



【横張り(下見板張り)】
100～200mm 幅

和の雰囲気には合わないため



【禁止】
奇抜な貼り方

和の雰囲気には合わないため

5

建具のルール



基本的な考え方

扉や窓などの建具に関しては木製建具を推奨とするが、ツヤがない茶色系から黒色系の色味の仕上げを施せば、アルミサッシや樹脂サッシなどの新建材も可とする。また、窓部に関しては、壁との調和を考慮し、壁色に近い色味の木製ルーバーを設置するのがより望ましい。

改修のポイント

素材 | 木製建具が望ましい。▶ [P.23](#)

色味 | 「焦げ茶色（黒色系）」から「茶色」の間。▶ [P.24](#)

質感 | ツヤのない素材または塗装仕上げを基本とする。▶ [P.28](#)

形状 | 窓部は前面に木製ルーバーを設置するのが望ましい。▶ [P.29](#)



5

建具の素材見本

色、質感、形を基準に合わせれば、基本的にすべての建具素材を使用可。



【開口部】
木製サッシ

建具の素材見本



【開口部】
アルミサッシ

建具の素材見本



【開口部】
樹脂サッシ

建具の素材見本



【開口部】
スチールサッシ

建具の素材見本



【玄関ドア】
木製ドア

建具の素材見本



【玄関ドア】
金属製ドア

建具の素材見本

5

建具の色見本

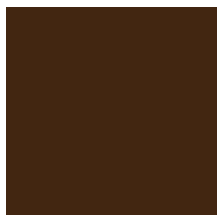
- ・濃い茶色系（色相5～10YR、10R／明度5以下／彩度4以下）
- ・黒色～濃灰色（無彩色／明度2以下）

※ 本マニュアルの色見本は近似色であり、出力環境によって色味が変わりますので、正確には（社）日本塗装工業会の色見本をご使用ください。



D15-20B (日塗工色番号)
5YR2 1 (マンセル値)

建具の色見本



D17-30F (日塗工色番号)
7.5YR3 3 (マンセル値)

建具の色見本



D15-30F (日塗工色番号)
5YR3 3 (マンセル値)

建具の色見本 ①



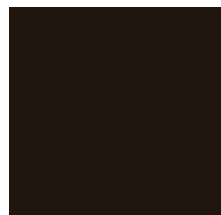
D09-30F (日塗工色番号)
10YR3 3 (マンセル値)

建具の色見本



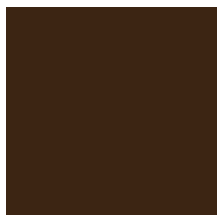
D09-40L (日塗工色番号)
10YR4 6 (マンセル値)

建具の色見本 ②



D19-20B (日塗工色番号)
10YR2 1 (マンセル値)

建具の色見本



D19-30D (日塗工色番号)
10YR3 2 (マンセル値)

建具の色見本 ③



D15-40D (日塗工色番号)
5YR4 2 (マンセル値)

建具の色見本



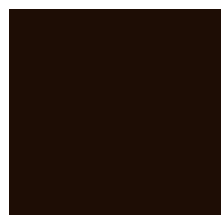
D17-40H (日塗工色番号)
7.5YR4 4 (マンセル値)

建具の色見本



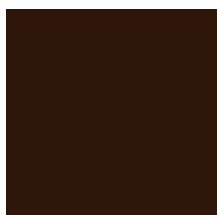
D17-50L (日塗工色番号)
7.5YR5 6 (マンセル値)

建具の色見本 ④



D09-20B (日塗工色番号)
10R2 1 (マンセル値)

建具の色見本



D09-20D (日塗工色番号)
10R3 3 (マンセル値)

建具の色見本 ⑤



D09-30F (日塗工色番号)
7.5R2 4 (マンセル値)

建具の色見本



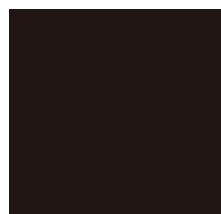
D07-20H (日塗工色番号)
7.5R3 6 (マンセル値)

赤味が強すぎるため



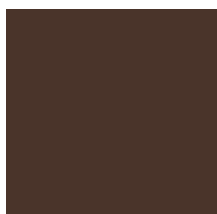
D07-30L (日塗工色番号)
7.5R4 8 (マンセル値)

赤味が強すぎるため ⑥



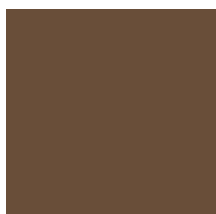
D19-20B (日塗工色番号)
10YR2 1 (マンセル値)

建具の色見本



D17-40D (日塗工色番号)
7.5YR4 2 (マンセル値)

建具の色見本



D17-50D (日塗工色番号)
7.5YR5 2 (マンセル値)

建具の色見本 ⑦



D17-60D (日塗工色番号)
7.5YR6 2 (マンセル値)

建具の色見本



D17-70D (日塗工色番号)
7.5YR7 2 (マンセル値)

建具の色見本 ⑧

5

建具の色見本



DN-10 (日塗工色番号)
N1 (マンセル値)

建具の色見本

⑨



DN-30 (日塗工色番号)
N3 (マンセル値)

明度の高い色のため



DN-40 (日塗工色番号)
N4 (マンセル値)

明度の高い色のため



DN-50 (日塗工色番号)
N5 (マンセル値)

明度の高い色のため



DN-60 (日塗工色番号)
N6 (マンセル値)

明度の高い色のため

⑩

5

建具色のシミュレーション

- ・茶色の場合、②のような彩度や明度が高い明るめの色味も推奨とする。
- ・黄色系の茶色の場合、④のような彩度や明度が高い明るめの色味も推奨とする。
- ・赤色系の茶色の場合、⑥のような彩度や明度が高い明るすぎる色味に寄らないようにする。

① 濃い茶色

濃い茶色の明度が低めのものは推奨色とする。



② 明るい茶色

茶色の彩度や明度が高めのものでも、木製サッシの場合は可とする。



③ 濃い黄色系の茶色

黄色よりの茶色でも、彩度や明度の低めのものは推奨とする。



④ 明るい黄色系の茶色

黄色よりの茶色の彩度や明度が高めのものでも、木製サッシの場合は可とする。



⑤ 濃い赤色系の茶色

赤色よりの茶色でも、彩度や明度の低めのものは推奨とする。



⑥ 明るい赤色系の茶色

赤色よりの茶色でも、彩度や明度の高いものは不可とする。



5

建具色のシミュレーション

- ・彩度の低い茶色の場合、⑧のような明度が高い明るめの色味も推奨とする。
- ・無彩色の場合、10のような明度が高い明るすぎる色味に寄らないようにする。

⑦ 彩度の低い濃い茶色

彩度が低い茶色の明度が低めのものは推奨色とする。



⑧ 彩度の低い明るい茶色

彩度が低い茶色の明度が高めのものでも、木製サッシの場合は可とする。



⑨ 黒色

黒色系の彩度が低い（濃い）ものは推奨色とする。



⑩ 灰色

黒に近いぐらいの濃灰色は可だが、基本的に灰色系は不可とする。



5

建具の質感見本

塗装する場合は、基本的にツヤ消しの仕上げとする。

木製建具の場合は、木目を活かした仕上げとする。



【木製サッシ・ドア】
ツヤ消し塗装

建具の質感見本



【アルミサッシ・ドア】
ツヤ消し塗装

建具の質感見本

5

建具の形状見本

奇抜な形状や洋風の意匠を避け、和の雰囲気を感じられる仕上げとする。
窓部へは、ルーバーを設置することが望ましい。



【開口部】
木製サッシの建具

建具の形状見本



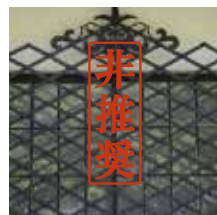
【開口部】
縦ルーバーで目隠し

建具の形状見本



【開口部】
横ルーバー

和の雰囲気に合わないため



【開口部】
奇抜な形状の建具

和の雰囲気に合わないため



【玄関】
和風の木製ドア

建具の形状見本



【玄関】
洋風の木製ドア

和の雰囲気に合わないため



【玄関】
和風の金属製ドア

建具の形状見本



【玄関】
洋風の金属製ドア

和の雰囲気に合わないため

6

外構のルール



基本的な考え方

なるべく自然素材を用いて、彩度の低い色味でシンプルな構成とし、建物との統一感を出すよう心がける。
また、通り沿いに高い塀を立てることは極力避けて、街に開いた外観を目指す。

改修のポイント

素材 | 自然素材が望ましい。▶ [P.31](#)

色味 | 彩度の低い落ち着いた色味の素材を使う。▶ [P.32](#)

質感 | ツヤのない素材または塗装を使用する。▶ [P.33](#)

形状 | 奇抜な形状の素材や仕上げを避ける。▶ [P.34](#)



6

外構の素材見本

・人工的な素材は極力避け、和の雰囲気を感じる素材を使用する。



【敷材】
ウッドデッキ

外構の素材見本



【敷材】
人工木デッキ

外構の素材見本



【敷材】
植栽

外構の素材見本



【敷材】
天然石

外構の素材見本



【敷材】
玉砂利

外構の素材見本



【敷材】
洗い出し

外構の素材見本



【敷材】
レンガ

和の雰囲気に合わないため



【敷材】
インターロッキング

和の雰囲気に合わないため



【敷材】
コンクリート

和の雰囲気に合わないため



【敷材】
タイル張り

和の雰囲気に合わないため



【積み材】
板塀

外構の素材見本



【積み材】
竹垣

外構の素材見本



【積み材】
石積み

外構の素材見本



【積み材】
生垣

外構の素材見本



【積み材】
塗り壁

外構の素材見本



【積み材】
タイル張り

和の雰囲気に合わないため



【積み材】
コンクリート

和の雰囲気に合わないため



【積み材】
ブロック

和の雰囲気に合わないため



【積み材】
レンガ

和の雰囲気に合わないため



【積み材】
フェンス

和の雰囲気に合わないため

6

外構の色見本

- ・洋風な色使いやポップな色使いを極力避け、和の雰囲気を感じる彩度の低い落ち着いた色使いをする。



【全体】
彩度低め色使い
外構の色見本



【全体】
洋風な彩度高めの色使い
和の雰囲気に合わないため



【部分】
ポップな色合いの塗装
和の雰囲気に合わないため



【部分】
洋風な色使いの敷き材
和の雰囲気に合わないため



【部分】
洋風な色使いの植栽
和の雰囲気に合わないため

6

外構の質感見本

ウッドデッキなどの木材に塗装する場合、基本的にはツヤ消し塗装で、木目を活かした仕上げとする。



【塗装】
ツヤ消し塗装&木目活かし

外構の質感見本



【塗装】
ツヤあり塗装

和の雰囲気には合わないため



【塗装】
木目を消す塗装

和の雰囲気には合わないため

6

外構の形状見本

- ・奇抜な形状を避け、和の雰囲気を感じられるような仕上げとする。



【敷き材】
シンプルな形状

外構の形状見本



【敷き材】
奇抜な敷き方

和の雰囲気に合わないため



【全体】
洋風な形状の門扉

和の雰囲気に合わないため

7

屋外広告物のルール

建物デザインルールの構成

「屋外広告物ルール」の構成としては、本ページ記載の「基本ルール」をすべての屋外広告物にかかる基本方針として定め、P.38で「サイズ」「色味」「素材」の3つの構成要素についての詳細ルールを定義しています。また、P.39において具体的に事例を紹介しています。

基本ルール

- 一．設置数を極力減らす。(むやみに貼り紙などをしない)
- 二．サイズや情報量を最小限に抑える。
- 三．彩度の低い落ち着いた色味を使う。
- 四．周囲の街並みとの調和を考慮する。
- 五．設置物の維持管理に努める。

※山梨県屋外広告物条例の基準を満たすことを前提とします。

※広告物によっては山梨県屋外広告物条例に基づく許可申請が必要です。

7

詳細ルール

サイズ検討のポイント

- 高 さ | 富士山の眺望を妨げないよう、低く抑える。
- 大きさ | 街並みを邪魔しないよう、極力小さくする。
- 情報量 | 情報量を最小限に抑え、小さくても伝わるものにする。

色味検討のポイント

- 色 味 | 彩度の低い落ち着いた色を使用する。
- 色 数 | 使用する色数を最小限に抑える。

素材検討のポイント

- 種 類 | 木や鉄など、目指す街並みに調和する素材を使用する。
- 性 能 | 経年変化によりみすばらしくならない素材を使用する。
- 照 明 | LED広告や照明が点滅するもの、ネオン管は使用不可。

7

良い事例

サイズ OK

建物のスケール感にあったサイズ感になっている。



サイズ OK

建物のスケール感にあったサイズ感になっている。



色味 OK

彩度が低く落ち着いた色で、街並みに調和している。



色味 OK

彩度が低く落ち着いた色使いで、2色構成のシンプルなデザインになっている。



素材 OK

木の街並みに調和するために金属素材を使用している。



素材 OK

木の街並みに調和するために木の素材を使用している。



7

悪い事例

サイズ NG

屋根から飛び出すようなサイズ感は禁止。



サイズ NG

彩度の高い色味や樹脂系の素材は禁止。



色味・素材 NG

彩度の高い色味や樹脂系の素材は禁止。



設置数 NG

むやみに看板の数を増やさない。



貼り紙 NG

街並みとして目立つ箇所に、極力貼り紙をしない。



維持管理 NG

看板を設置する場合は経年劣化に注意する。





さいごに

私たちの暮らす街「富士吉田」は、世界が文化遺産として評価した「信仰の対象」の文化「富士山信仰」の拠点の街として発展してきました。また、私たちの先人は、富士山麓の寒冷地で耕作もできない大地を切り開き、清廉な富士山の天然水を生かして「織物」の産業を発展させてきました。ともに平安時代を起源とし江戸時代から昭和に掛けて隆盛を極めた文化が、私たちの暮らす街に息づいています。

21世紀に入り、インターネットにより情報が世界を駆け巡り、観光の目的も多様化するようになりました。そして今、富士山の豊かな自然と文化、歴史、1,000年以上続く繊維の街が、新たな価値観とともに注目されるようになり、国内外から多くの人々が訪れるようになりました。

来訪者の皆さんに、富士吉田の魅力をもっともっと感じていただきたい。そしてできるだけ長く滞在していただきたいと思っています。そのためには、おもてなしのためのお店や賑わいや交流を創出する施設の整備が必要です。

富士吉田市は、民間が主導して、空き家や空き店舗、空き地を活用して、これらの施設整備を支援する「富士吉田市まちづくりファンド活用事業補助金制度」を創設しました。

この「景観デザインガイド」は、これから大きく変わっていく富士吉田にあって、歴史的、文化的資源である景観を守るとともに、富士吉田市が持続可能な地域社会を形成することに繋がると確信しています。

富士吉田市長 堀内 茂



producer

富士吉田市まちづくり公社

editor

NOSIGNER(御師の街エリア)(2016)

Hirofumi Nakagawa + OFDA(下吉田エリア)(2023)

Investigation cooperation

東京大学

慶應大学

東京理科大学

ふじよしだ定住促進センター

富士吉田市役所

Special thanks

商店会の皆様

掲載店舗の皆様

※建築基準法及び関係法令やその他条例を遵守した上でガイドラインを活用してください。

※山梨県屋外広告物条例の基準を満たすことを前提とします。

※広告物によっては山梨県屋外広告物条例に基づく許可申請が必要です。